

# 通信小海

「このことを信じますか」

牧師 荒<sup>あらかもみ</sup> 実<sup>まこと</sup>

死は、人間にとって好ましいものではありません。考えない方を選ぶでしょう。しかし、死はすべての人に平等に訪れるものです。では、避けられない死に對しどう向き合ったらよいのでしょうか。

キリストは弟の死に直面したマルタに「あなたの兄弟はよみがえります。」と言われました。マルタは「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼（弟）がよみがえることを知っています。」と答えます。これに對してキリストは「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きる

## 「今月のひとこと」

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」 ヨハネ11:25

のです。また、生きていてわたしを信じる者は決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」とマルタに言われたのです。

キリストは今から二千年前に人々の手にかかり十字架に架けられ殺されました。しかし、死んで墓に葬られ3日目朝に復活されました。よみがえられたキリストは、死に對して無力であった人間の死に對する勝利の実例となられたのです。

死は終わりではなく、始まりです。死を打ち破ってよみがえられたお方を信じる者は、キリストと一つにされ、死からいのちに移されるのです。これは世の終わりの日に起こることではありません。今、キリストを主と告白し、イエス様はまことの神であると信じるならば、その人は罪を赦され、神の子

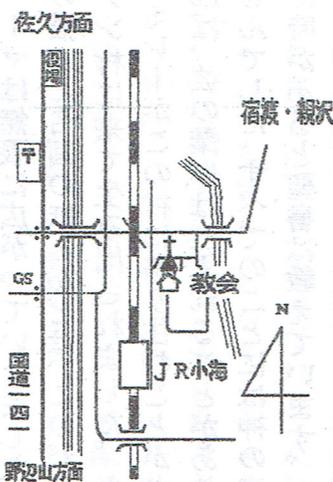
日本同盟基督教団 小海キリスト教会

南佐久郡小海町大字小海四三五・二七

〒三八四・二〇二 TEL 0267・88・7169

〒振替 00530・0・61683

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

金曜日 聖書の学び 午後八時から

\*初めての方も安心してお越しください。  
\*個人的な聖書勉強やご相談にも遠慮なくお越しください。

※当教会は、エホバの証人とは一切関係ありません。

とされ、「永遠のいのち」キリストと一つにされるのです。

キリストの死とよみがえり（復活）は、空想ではなく、歴史的な事実です。多くの証人がキリストの死と復活を証言しています。よみがえられたキリストを信じる時、私たちの心に平安が与えられ、死に対する恐れは消え、復活の希望に満たされます。そして、この地上の生涯のただ中で「永遠のいのち」を生きるものとされ、今、生かされていることを心から喜び、感謝できる者に変えられるのです。

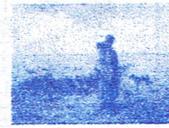
キリストは、あなたに語りかけておられます。

「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」



## 連載

### 信仰の眼で読み解く絵画



#### 第二章 ミレー

農民画家としての信仰の生涯

#### ⑪

岡山 敦彦 【著】

いよいよミレーの農民画家としてのスタートとなりましたが、彼の一家にとって、経済的な苦しさは続きました。彼ら夫婦には、九人の子どもがいましたので、絵画が少しは売れるようになったとはいえ、ミレーにとって一家を養うことは並大抵のことではありませんでした。生活が安定するようになつたのは、六十一歳で没したミレーが五十歳半ばごろのことです。それまで、親友のルソーが経済的に援助をし、時には名前を伏せてミレーの絵画を購入することさえあったといえます。「滅びに至らせる友人たちもあれ

ば、兄弟よりも親密な物もいる」（聖書）

生活の苦しさは続きましたが、妻ルメルが家族を支えてくれていました。彼女にしてみれば、同じ経済的な困難であっても、夫ミレーが喜んで自分の描きたい絵画を描いている姿を見て、苦勞もそれほど苦にはならなかったでしょう。彼の心も落ち着きを取り戻し、彼の温かな視線の先には、家族と青年時代を過ごした故郷の情景があり、彼が描きたい絵画のテーマは無限に広がっていきました。彼の描いた名画のほとんどは、このバルビゾン村に来て生み出されました。もし、ミレーがこの村に移り住むことがなければ、彼の傑作は生まれることがありませんでした。すべての中には神の定めた時があると聖書は教えています。

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。」今までの暗く長いトンネルから抜け出しやつとほほえむ時、一筋の希望の光を見出し心躍って絵画を描ける時が巡ってきたのです。

〈続く〉

## ニチニチソウ

## 日日草・日々想



「平凡なこと」

ニチニチソウを綴って3年目。今月はどんなことを書かせて頂くかと思いついて巡らしている時に、ふと、星野富弘さんの絵葉書が目に留まりました。

富弘さんの優しく味わい深いタッチで描かれた日日草の絵は、じんわりと温かく、一つ一つの小さな花がこちらに向かつて微笑んでいるように、添えられている詩の言葉を語りかけてくれているような思いになります。昨年の流行語大賞の一つは「インスタ映え」でしたが、SNSとは無縁の私には、良さも理解できる反面、なぜそこまで自分の日常や経験をことさ

らにアピールしたいのか、ついていけない感覚の方が強くありました。

「今日も一つ 悲しいことがあった 今日もまた一つ うれしいことがあった 笑ったり 泣いたり 望んだり あきらめたり にくんだり 愛したり

そして これらの一つ一つを 柔らかく包んでくれた 数えきれないほど 沢山の 平凡なことがあった」

クリスマスチャンである富弘さんの詩は、祈りや神様への感謝から生まれる深く広い世界があると思います。

「これらの一つ一つを柔らかく包んでくれた 数えきれないほど 沢山の平凡なこと」があるからこそ、特別な喜びが特別なものとなるのではないのでしょうか。そして、その特別な出来事や思いがある時にこそ、背後にあり柔らかく包んでくれる平凡なことに目を留める心を持つていたいと思うのです。平凡さの中に秘められている、奥の深い幸せに気づくことのできるセンスが磨かれていく方が、インスタ映えする写真を撮る腕を上げるより、人生を豊かにしてくれるの

ではないかと思えます。

特別なことや物、存在に注目しやすいのは、人間がうわべだけで判断しやすい傾向があることの現れでしょう。けれども、「人はうわべを見るが、主は心を見る」と聖書は語ります。

神様は、地味でも平凡でも、そこにあつて心を見ていて下さるのだから、人から注目されたり評価されたりするようなことなどない、退屈にさえ思えるような日々の営みであつても、自分の心の在り方に目を留めて、注がれている神様の限りない恵みを想い、感謝しつつ歩む一日でありたい……

真心込めて描かれた日日草の絵に、平凡なことを愛おしむ眼差しと、平凡な日々を健気に生きる尊さを、改めて思うことでした。

## 中学生学習室

(木)

15:30~

英語/数学

各75分

1科目1コマ

1,000円

いつでもお問い合わせ

ください。

担当 荒粉知恵

暮らしの  
くすりばこ



《今月の処方箋》

◆レンジで足裏マッサージ◆

新生活の始まる春、何かと忙しくて疲れが溜まり、だるさなど、なんとなく全身の不調を感じる方も多いと思います。

足は第二の心臓と呼ばれるように、身体のいたる部位に効果のあるツボが密集しています。足裏のツボを押す事で、全身の健康状態が簡単にチェックでき、痛みの強いツボをマッサージする事で、

- 血行不良の改善
- 老廃物の体外への排出

○疲労の溜まった内臓のリフレッシュなど、自律神経の乱れを改善し、本来人間の持つ自然治癒力を高めて、症状が緩和されることが期待できます。

ツボ押しやマッサージの際に便利なのが、中華料理などで使うレンジ。マッサージ器具としても活用できるんです。平たい面や丸い角をうまく使って、力の入れ具合を調節しやすいのがポイント。厚みのある陶器のものを、お湯につけて温めてからをお使いください。

簡単に分かる足ツボと症状、マッサージの方法を一つご紹介します。

《チェックテスト》

湧泉（ゆうせん）のツボを深く押し試みて、十秒経っても指の跡がへこんだまま

《症状》

肉体的な疲労蓄積・だるさ

《マッサージ》

レンジのすくう部分の平たい面を使って、指の付け根から足裏全体を、老廃物をかき出すようにマッサージする



湧泉（ゆうせん）

★4月のハレルヤキッズは

21日（土）です。遊びに来て下さい♪

路上生活者支援

山谷（やま）農場

続けてご協力お願いします

ゆうパックの送料値上がりや重量のある荷物に対する基本料金の加算に伴い、支援物資送費の必要が増えていきます。切手や書き損じハガキ、年数が経ったものでも構いません。ぜひ、やま農場にお譲りください。



《連絡先》 藤田 寛

☎ 090・1436・6334

FAX 042・786・2088

メール [nyoro@beige.ocn.ne.jp](mailto:nyoro@beige.ocn.ne.jp)

《物資送付先》 小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384・1302南牧村大字海ノ口966・15南牧村社会福祉協議会気付 山谷農場

\*着払い送付はご遠慮ください。

\*土曜日の配達指定でお願いします。

山谷農場事務局（藤田）小海町芦谷ヒルサイドコーポ一〇二号室 毎週土曜

カンパ・〒振替〇〇二四〇・四・五三七九六